

令和4年10月23日開催の「臓器移植についての市民公開講座」で聴講者から寄せられた質問への回答

	質問	回答
1	生体肺移植手術を受けたドナー側の その後の人生等	基本的には手術の傷が残ることと、しばらく創部の痛み が残ります。そして肺機能が数値上は20%程度低下した まま過ごすこととなります。少し疲れやすい感じが残り ますが、それ以外に日常生活や運動等での制限はありま せん。
2	海外ではドナー提供者が多いのに対 し、日本では提供が進まないことの 事情と改善すべき点等	あまり正確ではありませんが、海外では亡くなった後は あまりご遺体に魂が宿るような考えは少なく、恐らく社 会に貢献できるのではないかと考えが強いように感しま す。一方日本では頑張っている人のご遺体にメスを入 れるなんてとんでもないという文化は少なからず残って おり、社会全体としてそれを認めると冷たい家族と思わ れるのではないかと考えるところもあるように思いま す。文化の違いで良い、悪いではないと思うので改善と いうと難しいですが、海外の動きも情報として広めつ つ、ドナー提供に正確な情報の元に意思を示してもら う割合を増やすことは必要な事だと考えています。
3	肺移植レシピエントの適応基準が60 歳未満という年齢制限について、今 後は基準の見直しが無いのか？2年半 の待機中に年齢制限を超えてしま うことも不安材料である。	大変重要な問題で、片肺と両肺でも年齢が異なってお り、海外ではもう少し高齢でも移植されていることか ら、しばしば専門施設での話し合いは行われていて、現 状すぐはないですが、今後ドナー提供数などを考慮して 変更する可能性は十分あると思います。承認までが60歳 に間に合えば大丈夫なので、待機期間が長くなっても登 録されていれば年齢で外れることはありません。
4	臓器移植の中でなぜ今回は、肺疾患 なのかと思いました。	千葉ヘルス財団では、「臓器移植についての市民公開講 座」を毎年開催しており、テーマとなる臓器は当財団の 臓器移植部会の審議を経て決定しています。 昨年では心臓、一昨年は腎臓で、肺は平成27年にテーマと なっていました。